

外国語活動部会

研究主題

英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながら、
コミュニケーションを図ろうとする児童の育成

1 主題について

今年度から外国語活動が年間35単位時間の完全実施となった。昨年度に引き続き外国語活動の目標を踏まえて、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成を目指し、本テーマを設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月13日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	11月10日	第2回総合研究会 授業研究会（花岡小）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成23年11月10日（木）
- ・会 場 花岡小学校
- ・単元名 5年 What's this?
「クイズ大会をしよう」
- ・授業者 H R T 小野 昇
支援員 成田 優子

① 授業者から

- ・本時の授業で子どもたちは、いつもと違った状況のため、はじめおとなしかったが、徐々に普段通りになり、ブラックボックスクイズの頃には大きな声で話すことができるようになっていた。1時間を通して、子どもたちはがんばっていた。
- ・授業の始めに、前時までの活動を自然に思い出せるようスキットを取り入れた。子どもの興味を引きつけるようなものを準備し、スキットに巻き込み「What's this?」の使い方を確認することができた。
- ・展開②のデジカメクイズは、成田支援員のアイディアで英語ノートにはないものだった。「What's this?」の他に「I think so.」などの表現を加えたため、子どもにとっては少し負担になったかもしれないが、考えようとする態度は見ることができた。
- ・授業の終わりに簡単な振り返りを行っている。9月から県教委で出しているものを参考にして、カードを使用している。活動の時間をできるだけ長く確保したいので、短時間でできるようにした。
- ・支援員との打合せは、昼休みなどに指導資料を見ながら行い、子どもの様子に合わせて活動を加除している。

② 協議

(導入について)

- ・あいさつから導入まで、H R Tと支援員のやりとりがよく、子どもたちが引き込まれていた。途中、H R Tが和訳する場面が見られたが、H R Tは英語を楽しく使おうとするモデルでもあるので、すぐに和訳せず、行動で子どもに例を示して何をしたらいいのかを感じ取らせるようにさせたい。

- ・指示等を出したあとの支援員の間がよかった。生活（学習）経験の違いにより、全体よりも個人を中心に話しかける支援員もいるので、全体を意識して欲しい場合には、打合せできちんと伝えておく必要がある。

〈展開について〉

- ・展開①のブラックボックスクイズを全体で丁寧に行っていたが、コミュニケーション能力を高めるという観点では、指導者が二人いたので2グループに分かれたり、1対1の場面を作ったりして、どんどん使わせてみてもよいのではないか。
- ・答え役の子に、ヒントを求める一言があると、活動がさらに広がったのではないか。
- ・展開②のデジカメクイズは、子どもたちの心から本当に出た「What's this?」になっていた。

〈まとめについて〉

- ・めあてに沿った振り返りを、カードに記述してくれることを期待している。
- ・振り返りカードは自己評価なので、活動に対する評価としてみていない。評価するものは、活動で使った学習カードを基にしている。

(2) 指導助言（小坂町教育委員会 古谷 敦浩 事務局長補佐兼指導主事）

- ・外国語活動は、様々な活動を通して、言葉を使って人とかかわることが楽しかったなと思わせることが大切である。活動で使用する表現や語彙は、活動中に分かっている、使うことができることよい。その時間が終わったら忘れてしまってもかまわない。外国語〈英語〉嫌いを作らないことが大切である。
- ・教師の英語力について・・・自信がないという教師が多いが、すぐに話せるようになる方法はない。しかし、それらしく見せる方法はある。教師は、子どもの代弁者でもあるので、話そうとする姿を見せることが大切である。
- ・基本的な学習過程について・・・英語ノートは十分なinput→慣れ親しみ・下地づくり intake→適当なoutputで構成されている。学習のステップとしては、雰囲気づくり→練習→疑似体験→成功体験となる。基本的な1時間の指導過程は、あいさつ→ウォームアップ→めあての確認→擬似的活動→コミュニケーション活動→自己評価・あいさつとなる。
- ・児童の興味・関心を高める学習過程の工夫について・・・ねらいに合わせた学習活動を設定する。タイムプロットの活用。クイズ、タスク的活動等が挙げられる。
- ・コミュニケーション能力を育てる手立てについて・・・学級経営の充実、ほめて伸ばす、伝わった喜びを共感すること等を心がけたい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・今年度も昨年度同様、授業研究会をもつことができ、外国語活動の授業の在り方について理解を深めることができた。
- ・各小学校にALTや支援員が配置され、ほぼ毎週T・T形式で授業が進められるようになったことに加え、打合せも以前より気軽に深く行うことができるようになった。



【What's this?】

(2) 課題

- ・ねらいの設定と評価の在り方。
- ・指導要録記入時の評価と観点について。